



青山秀夫教授

青山秀夫教授記念号によせて

社会学部長

倉 田 和 四 生

光陰矢の如しという言葉の通り、五年間の歳月が過ぎ去り、青山秀夫先生が本年の三月末をもって定年退職されることになりました。

先生は昭和七年、京都大学経済学部を卒業されましたが、ひきつづき十三年三月まで同大学大学院において研鑽を積まれました。昭和十三年四月からは助手となられ、講師、助教授を経て、昭和二十一年七月には教授に就任され、昭和四十八年三月に定年退官されるまで、実に三十五年間にわたって京都大学に奉職されたあと、昭和四十八年四月から関西学院大学社会学部の教授に就任されました。

先生は日本でも有数の理論経済学者としてよく知られておりますが、同時に、マックス・ウェーバーの研究者としても、日本における第一人者として知られています。昭和二十五年に出版された『マックス・ウェーバーの社会理論』（岩波書店）および昭和二十六年の新書版『マックス・ウェーバー』（岩波書店）はともにウェーバー研究の古典として広く愛読されています。

大道安次郎教授（昭和四十七年三月）、清水盛光教授（昭和四十八年三月）が、あいついで定年退職されたあとに、青山先生のようなすぐれた学者を社会学部に迎えることが出来たことは神の導きであったと思わざるを得ません。

先生は社会学部に就任後、大学院の制度の整備や内容の充実に大きな働きをなさいました。たとえば博士号の審査、指導教授選考基準の設定、社会福祉専攻の博士課程の申請などは先生のご尽力をまっしてはじめて出来たと申しても過言ではありません。

さらに学部では「社会科学概論」やゼミを担当され、レベルの高い講義をしていただきました。先生の講義が学部生によっていかに高く評価されていたかは、先生の最終講義（一月十七日（火）四時間目）に大教室が学生や教員で超満員になったことから知られるところです。

青山先生はすでに昭和二十六年、京都大学より、「経済学博士」の称号を受けておられますが、昨年、関西学院大学社会学部に学位の請求論文を提出され、慎重審査の結果、「社会学博士」が授与されることになりました。これは関西学院大学社会学部の学位の水準についての評価を高めるものとして慶びにたえません。

幸い先生は三月末で定年退職されました後も、非常勤講師として、大学院および学部講義を担当していただくことになっています。御健康に恵まれ、永く社会学部のために御指導を給わりますようお願いする次第です。